

## 北海道森林管理局

(案)

## 隣接地域におけるコミュニティーベースの個体調整の取組

北海道森林管理局では、知床世界自然遺産地域に隣接する知床半島基部を主体に平成 25 年度からエゾシカ捕獲事業を毎年実施している。平成 30 年度は新たに「くくりわな」を導入した結果、捕獲頭数 79 頭の内、くくりわなによる捕獲頭数は 32 頭 (44%) であった。また、過去の捕獲頭数の推移は、以下のとおりである。

2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)
35 頭	113 頭	173 頭	99 頭	81 頭	79 頭

北海道森林管理局が知床で実施しているエゾシカ捕獲事業は、知床世界自然遺産の希少な森林植生への採食圧被害の対策のほか、農林業被害等を受けている地元地域の要望に応えた事業でもあることから今後も継続する考えであり、捕獲したエゾシカの有効活用も引き続き取り組んで参りたい。

エゾシカの捕獲手法については、「囲いわな」及び「箱わな」を主な捕獲手法としつつ、平成 30 年度から導入の「くくりわな」も積極的に導入していきたい。また、銃猟は必要に応じて実施する取扱としたい。

また、採食圧のモニタリング調査は継続していく予定であるが、現状では、新たなエゾシカの頭数調査へ着手することは難しい現状である。

